

# 施政方針 平成25年度

平成25年第1回熊野町議会定例会において、町長が平成25年度の施政方針を述べました。

町政運営に対する所信と施策の概要をお知らせします。  
(企画財政課)

## 【はじめに】

平成25年度予算案、並びに諸案件につきまして、私の所信および町政の基本方針を申し上げ、町民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

## 【町を取り巻く諸情勢】

我が国の経済は、輸出環境の改善や政府の緊急経済対策の実施、景気回復を最優先とする当初予算への期待感から、回復の兆しが見られます。  
しかしながら、世界経済の先行きは不透明であり、企業収益や雇用情勢の動向は流動的です。

地方においては、長期化したデフレ不況や円高の影響により、未だ地域経済は

学生の入院医療費と、小学校就学前の子どもを対象とした医療費の無償化を引き続き実施します。

高齢者施策では、「第5期介護保険事業計画」の中間年度として、介護保険事業の円滑な運営を図り、また今後、益々増加が見込まれる認知症高齢者対策として、正しい知識の普及啓発を継続的に行うほか、サロ

ン事業に体操リーダー養成講座の修了者の協力を得るなど、地域と一体となった介護予防事業を積極的に推進します。  
また、「地域包括支援センター」を中核機関とした「地域包括ケア体制」の推進や、地域の関係機関と連携した見守りネットワークの構築など、地域支援体制の充実を図ります。  
障害者施策では、身体障害者手帳の交付対象とならない難聴児に対する補聴器の購入費などにおける助成や、障害児の特定の治療に

## 【各部門の取り組み】

### ■総務部門

町政に対する関心や理解を深めていただくため、住民が行う学習会へ職員が出向き、町の業務内容の説明や情報提供を行う「出前講座」を実施します。

また、直接、住民の意見、要望などをお聞きして地域課題を共有する「地域懇談会」を開催します。

重点施策である生活福祉交通「おでかけ号」は、半年間の試験運行で相当数の利用があることを確認し、真に望まれていることを認識しましたので、新年度から本格的に運行します。

住民生活の基盤となる「地域の活性化」と「域力の強化」のためには、世代を超えて活躍できる「環境の整備」と「地域を支える人材の育成」が重要です。

昨年3月に法政大学と締結した「事業協力に関する協定」により、町民の方にも参加いただいで、大学と

本町を結ぶ、遠隔授業を実施します。

また、産業の活性化、定住交流人口の増加に向け、観光事業と合わせて、筆産地の歴史と文化を生かし、熊野筆を活用した「まちづくり」と「まちのPR」を行うとともに地域産業の振興・支援を行います。具体的には、筆の原材料の確保状況についての調査や、昨年7月に、広島県が東京銀座に開設した、広島ブランドショップ「TAU」に出店している熊野筆セレクトショップを拠点として、首都圏における熊野町と熊野筆のPRを行います。

更に、定住交流人口の増加を図るため、筆の街交流館「K・JIN」で実施する事業を充実させ、小学生の社会見学などの誘致を行い、観光大使「ふでりん」を活用して、町内の行事やイベント、筆の里工房や町内の史跡などの情報発信を実施します。

(仮称)熊野黒瀬トンネルを含む県道バイパスが、25年度末に開通する予定です。  
また、道垣内交差点では、河川の横断部を中心に工事が行われ、川角工区では、用地買収・物件補償が実施される予定です。

県道瀬野呉線(深原地区)の整備は、今後、瀬野呉線バイパスの地形測量および詳細設計を基にルートが確定され、用地測量や一部、用地買収が実施されます。

また、新宮地区では、交通安全施設等整備事業が引き続き実施される予定です。

砂防事業では、雲母川通常砂防事業で、用地買収が引き続き実施されます。

町内では、深原地区町有地造成事業が順調に進捗し、25年度末に完了する見込みで、周辺道路の整備により、本町を含む周辺地域の交通機能が強化され、流通の拠点としての位置づけが確立されます。  
日常生活に関連する町道

### ■民生部門

子育て支援策では、健全な妊娠と出産を支援するため、これまでの14回の妊婦健診を継続し実施します。  
育児面では、乳児家庭の全戸訪問、乳幼児健康診査や、子育て支援センターでの新たな事業の開始、乳幼児の健康や発育の保持増進に努めるとともに、未熟児養育医療費給付事業を実施し、未熟児の入院に係る医療費を支給します。

保育所では、一時保育、病後児保育などに加え、早朝7時からの延長保育を実施するなど、多様なニーズに対応します。

また、子どもの教育・保育、子育て支援を総合的に進める「仕組みづくり」が27年度から始まり、「次世代育成支援行動計画」を引き継ぐ「新・子ども子育て支援事業計画」の策定に向け、ニーズ調査を行います。  
子育て世帯への経済的な負担軽減としては、小・中

の主要幹線の整備は、東部

地域では、「深原公園線」を、西部地域は、「出来庭川角中央線」の舗装工事を実施し、その他の町道においても、待避所の設置や局部の改良、橋梁では五反田橋の架け替え工事を実施します。

さらに、緊急経済対策による国の補正予算で、舗装の修繕工事を10路線計画し、農業水路の改修工事も3路線実施します。

また、重点施策の2点目、若年世代の定住を促進するため、住宅を取得する際に、「子育て世代定住促進助成金」を交付します。

公共下水道事業は、新宮地区および平谷地区の一部におきまして、約4haの整備を予定し、完了後の普及率は約92%となります。

上水道事業では、高所配水団地水道施設の湖翠園団地および城之堀団地の整備を行い、新宮地区の未給水地区の整備と熊野団地内の老朽管の更新に着手します。

### ■教育部門

安全・安心な教育環境の充実のため、耐震性評価の低い学校施設の耐震補強を優先的に実施します。

緊急経済対策による国の補正予算などで、第一小学校の特別教室棟と体育館、第二小学校の普通教室棟と特別教室棟、第三小学校の南校舎、さらに東中学校の特別教室棟、管理棟および体育館の耐震補強工事を実施します。

これにより、耐震化率は、25年度末で92・6%となり、27年度までに耐震化率100%達成を目指します。

児童生徒の学力につきましては、着実に向上しており、引き続き、熊野町標準学力検査を実施し、児童生徒一人ひとりに応じた学習指導を実施します。

最後に、長年の懸案事項であった町民体育館におきましては、屋根の改修および外壁防水工事を実施します。